

はじめに

滋賀県書教育研究会は、県内の小学校・中学校における国語科書写、更には高等学校等における芸術科書道に関する教育の充実と発展をめざして、様々な研究と実践を重ねております。長い歴史をもち、小学校から高等学校までの教員が、共に手を携えながら活動を進めている点において、特長的な研究会であると自負してきました。また同時に、文字を指導する責任の重さも感じているところです。こうした中で、特に小学校の教員が硬筆指導をする際に参考となる資料の作成に取り組み、ここに完成をいたしました。

小学校に入学したばかりの児童から「先生、はやく字の練習しようよ」や「この字知っているよ」などの声をよく聞くことがあります。多くの子どもたちにとって「学校でのお勉強」の代表格は「文字を書くこと」であると捉えているようです。子どもたちの文字を書くこと・練習することへの期待感はとても高いものであると考えられます。それだけに、硬筆指導の入門期における指導は重要であると考え、また、本研究会の考え方にご賛同いただいている多くの先生方の指導の手立てとなるよう、次の2点に配慮しながら本資料の作成に取り組みました。

◎自己表現を大切に指導している毛筆とは違い、誰もが整った文字が書けるような硬筆指導ができるよう配慮しています。

◎楷書にふさわしい直線的な書き方をはじめ、不要と感じられる打ち込みやはねの排除など、できる限りわかりやすく指導しやすい標準文字となるよう配慮しています。

本資料が、一年生を担当された先生方だけではなく、多くの小学校教員の方々の硬筆指導の一助となり、本県の書教育充実と発展につながることを期待しています。

最後になりましたが、本研究会の事業推進、ならびに本資料作成に関わり、ご指導を賜りました関係の方々に厚くお礼申し上げます。

平成二十九年三月

滋賀県書教育研究会・副会長

滋賀県小学校教育研究会書写部会長

丹羽 広 光

鉛筆の持ち方や姿勢について

子どもたちは小学校に入学するまでにクレヨンや鉛筆、マジックなど、いろいろな筆記用具を手に入れています。中でも鉛筆は一番身近な筆記用具で、鉛筆を使い慣れて入学してくる子どもも少なくありません。すでに、間違った持ち方が癖になってしまっている子どもも見られます。多くの字を書いても疲れず書きやすい姿勢と、正しい鉛筆の持ち方を指導することはとても大事なことです。

初めての書写の学習では、まずは、姿勢、鉛筆の持ち方を指導し、線遊びへと進めていきます。

姿勢は、背筋をぴんと伸ばし、体と机や背もたれの間を適度に空け、両足は床につけます。そして、両手を軽く机の上に置きます。手の位置が紙の上で自由に動くことを鉛筆の持ち方とセットで練習することが重要です。鉛筆を持った手が文字を書くとともに、紙の上で動くことのできてこそ、押さえすぎずに書くことができます。この練習プリントの文字は、子どもにはかなり大きい字です。大きい字で書く理由は、手を紙の上で動かして（すべらせて）書けるようにするためなのです。特に、左から右へ引く長い線や右下へ引く長い線は手が動かないと書けません。このことは、鉛筆の持ち方と同様、毎時間徹底して指導することが大事です。そうでないと、練習の意味がありません。鉛筆を持っていない方の手は、紙を押さえることも合わせてご指導ください。

姿勢や鉛筆の持ち方については、合い言葉などを決めておくといでしょう。例えば、

【背筋はピン、両足ピタツ、間はグー、持ち方オツケー、机の上でスイスイ動く、あいた手押さえて始めましょう。】

【グーグー、チョコキチョコキ、はさんでパツタン、中指まくら】（チョコキ

は親指と人差し指で）

というように。合い言葉は教室の前面に掲示しておき、常に意識できるようにするといいですね。鉛筆の持ち方についても正しい鉛筆の持ち方の絵入りプリントを用意し教室に掲示し、家の学習机の前などにも貼っておけるよう子どもにも配布するとよいでしょう。

このプリント集の使い方

文字の並び方

○一年生の子どもが学びやすいよう、単純な形から複雑な形へと並べていきます。

○できるだけ、同じ形の字を集めて、習得しやすくしています。

○一時間に一文字として構成していますが、学級や子どもの実態に合わせてお使いください。

評価について

○一字につき、学習のねらいに合わせて、子ども自身の目で評価する欄を設けています。

左利きの子どもについて

○このプリント集では、表は手本を左に書いています。裏は、上の手本を見て練習するようにしています。

○基本的に右利きの子ども用のプリント構成となっていますので、左利きの子どもには反対側にお手本を書くなどの配慮をしてあげてください。

このプリント集は増し刷りして、ご自由にお使いください。